

《平成 30 年 3 月定例会（平成 30 年 3 月 8 日）》

〈要旨〉

・教育現場における、LGBT を含む性的マイノリティについて

〈会議録〉

◆林政行

無所属の林政行と申します。

今回は、学校現場における L G B T を含む性的マイノリティーについて、学校教育部長と教育長に伺います。

未来を担う子供たちが多様な性のありようを受けとめ、希望を持って自分らしく学校生活を送ることができ、マイノリティーの子供たちにとって学校が安心・安全で居心地のいい場所となるよう環境を整えることが、学校教育に携わる関係者の責務だと感じています。

ただし、決してその方たちだけで環境を整えることができるわけではなく、子供たちを支える方々の性的マイノリティーに対する理解や役割も重要でありますし、社会全体の土台なども必要であることは間違いありません。この環境を整えることで一番肝心なことは、マイノリティーの子供たちがいることを前提に動くということです。今の奈良市の学校現場は、この点が十分行き届いているとは言いがたい状況であります。

ある調査では、性別に違和感を感じた時期について、性同一性障害の当事者の多くが、物心がついたころには自覚している結果が出ています。その中で約 9 割が中学生までに違和感を自覚し、体は女として生まれたけれども自分は男だと思っている人、または男として生きる人の当事者の約 7 割が小学校の入学時に既に違和感を持っていました。この調査から、低学年、早期からの対応が必要と考えられます。また、学生のころ、制服、水着、トイレが苦痛だったという話を私自身も聞いております。

大阪市の淀川区、阿倍野区、都島区の 3 区合同教員向け L G B T ハンドブックの「こんな雰囲気づくりをめざしましょう」の項目には、「『同性が好きでいいやん、異性が好きでいいやん、好きにならんでもいいやん、好きな服装でイキイキしてる方がいいやん』『自分のことを大切にしたい』『相手のことも大切にしよう』と思える気持ちが自尊心や他人を思いやる心を育むことにつながります。」と書かれています。

奈良市の幼稚園、保育園、こども園では、先生方が子供に寄り添って個々の多様性を認める研修を受けていることもあり、この雰囲気づくりができています。実際に男の子が女の子っぽい洋服を着てきても、先生も子供たちも、その男の子を特別な存在と思うことなく、みんな生き生きと過ごし、自尊心や他人を思いやる心をごく自然に身につけています。この子供たちがごく自然と身につけたことを、小学校の低学年からうまく順応させ取り入れて

いただきたい。そして、今このときにも違和感や苦悩しているかもしれない未来を担う子供たちに、さまざまな施策を打っていただき、その気持ちを少しずつでも解消させ、未来へ歩んでいただきたい、質問をさせていただきます。

まず、LGBTを含む性的マイノリティーに関する市内の学校の現状を、学校教育部長、教えてください。

◎学校教育部長（北谷雅人）

林議員の御質問に、一問一答でございますので、自席よりお答えをさせていただきます。

LGBTに関する市内学校の現状についてでございますが、各学校においては、文部科学省から平成27年に出された性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等についての通知、また、平成28年の性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施についてのパンフレット等に基づき、LGBTを含む性的マイノリティーについて理解を図っているところでございます。

また、昨年度は、市立学校全ての養護教諭を対象に、LGBTの当事者の方を招聘した研修を実施いたしました。学校によっては、独自に校内研修のテーマとして取り上げ、同様の研修を行ったところもございます。今年度は、教育委員会事務局職員全員に対しても同様の研修を行い、235名が受講いたしました。

さらに、学校現場では、日ごろから当該児童・生徒が自分の悩みや不安を相談しやすいように相談室を設けたり、定期的にスクールカウンセラーを学校に派遣したりするなど、相談体制や環境を整えているところでございます。

児童・生徒に対する指導といたしましては、道徳の時間を初めとする教育活動全体を通して、相手の立場に立って考え、互いの違いを認め合う心情を養っているところでございます。以上でございます。

◆林政行

ありがとうございます。

市内の学校の現状を聞く限り、まだまだマイノリティーの子供たちがいることを前提に動いているとは言えない状況です。

大阪市では、3区合同教員向けLGBTハンドブックを作成し、それをもとにして学校現場に取り入れています。平成29年3月には、倉敷市教育委員会が、性の多様性を認め合う児童生徒の育成との題目で人権学習実践資料を出されています。その中身を読みますと、小学校、中学校ともに相当濃い内容の人権学習を行っていることが見てとれます。

子供たちの性の多様性に関する学習の前提として、まず教職員の研修、そして学校環境づくり、相談・サポート体制の整備、保護者との連携、最後に、小学校の低学年、中学年、高

学年、中学校、高校と、発達段階に応じた性の多様性に関する学習と、この3点をしっかり抑えておかなければなりません。

そこで、これらのことを踏まえて奈良市教育委員会として、今後、具体的にどのように取り組まれるのか、学校教育部長、教えてください。

◎学校教育部長（北谷雅人）

御質問にお答えをいたします。

今後、具体的にどのように取り組もうと考えているのかということについてでございますが、議員から御紹介いただいたとおり、独自に性的マイノリティーやLGBTに関するパンフレットを作成し、その取り組みを進めている自治体があることは承知いたしております。そのような他市の取り組みも参考にしながら、学校においては、例えば図書館や保健室にLGBTに関する書籍を置くなど、できることからしっかり取り組んでまいりたいと思います。

また、教育委員会といたしましては、当該児童・生徒や保護者から学校に対して相談があった場合、学校における相談体制の整備や支援の状況を聞き取り、必要に応じて関係機関とも連携するなどして適切な助言を行ってまいりたいと考えております。

そういった環境や体制の整備はもとより、まずは教員がLGBTを含む性的マイノリティーについて高い意識と正しい理解を持つことが重要であり、児童・生徒の発達段階を踏まえて適切に指導できるよう、研修等を実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆林政行

できることから取り組むとの御答弁、ありがとうございます。

最後に、LGBTを含む性的マイノリティーに関して、教育長がどのような認識を持っておられるのか教えてください。

◎教育長（中室雄俊）

自席からお答えを申し上げます。

LGBTに関しまして、教育長の私がどのような認識を持っているのかというお尋ねでございますが、学校においては、性に対する不安を持ちながら、周りから理解されないことにより思い悩む児童・生徒がいる可能性があることを心にとめながら指導に当たることが重要であるというふうに認識をいたしております。そのためには、今、学校教育部長が御答弁申しあげましたように、教職員自身がLGBTを含む性的マイノリティーについて正し

い知識と高い意識を持ち、適切に指導できることが大切であると考えております。

本市教育委員会といたしましても、今後、当該児童・生徒が孤立感や自己否定、いじめなどに苦しむことなく、自分らしく安心して生きられるように取り組んでまいります。

以上でございます。

#### ◆林政行

心強い御答弁、ありがとうございます。

ある大学の先生は次のように言われています。LGBTを含む性的マイノリティーの子供たちは、誰が信頼できる大人であるかしっかり見えています。この先生なら自分のことをわかってくれるだろうと信じて、期待して、本当の自分の話をするでしょう。学校での取り組みや先生のさりげない一言が彼らの人生を変えることになります。

今回は教育現場を中心に話をさせていただきましたが、公共サービスにおける状況はどうなっているのか。相談や役所窓口に来られた方の対応、公営施設内の施設利用の対応、福祉サービスを初め対面サービスの対応、防災・災害避難時の対応、公民館などの施設利用や公営住宅の入居に対する対応、奈良市として、これらのLGBTを含めた性的マイノリティーの方々に対する対応はしっかりとしているのか、市長にはいま一度御確認していただき、不十分であるなら早急な是正をお願いして、私の質問を終わらせていただきます。